

日本性科学会 ニュース

第34巻 第1号

平成27年（2015年）3月

発行人：大川 玲子 印刷所：(株)絵文社

第44回セックス・カウンセリング研修会

日 時：2015年5月24日（日）9:30～16:30

場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂

受 講 料：一般 12,000円 学会会員 10,000円 学生 3,000円

※昼休みに、2015年度日本性科学会総会を開催致します。

第35回日本性科学会学術集会／第16回性科学セミナー

日 時：2015年10月10日（土）第16回性科学セミナー / 2015年10月11日（日）第35回日本性科学会学術集会

場 所：埼玉県県民健康センター 1F 大会議室A およびB、2F 大ホール

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1 TEL 048-824-4801

JR 浦和駅（西口）より800m（徒歩約10分）またはJR 中浦和駅（西口）から1,100m（徒歩13分）

参 加 費：日本性科学会 5,000円（学生1,000円）、性科学セミナー 3,000円（学生1,000円）

日本性科学会+性科学セミナー 7,000円（学生2,000円）

会 長：石原 理 埼玉医科大学産科婦人科学教授

テ マ：性のディスクールを超えて

特別講演：「民族生殖理論と性」 東京外国语大学総合国際学研究院教授（文化人類学）栗田 博之

シンポジウムⅠ：「コミュニケーションとしての性を教える」

シンポジウムⅡ：「エ・アロール～中高年からの性を謳歌する」

一般演題

一般演題募集：一般演題発表を希望される方は、演者氏名、所属、連絡先住所・電話・FAX番号、抄録原稿800字以内を下記e-mailアドレスへお送りください。採否、発表方法の詳細は後日連絡致します。なお、一般演題の発表はすべてパソコンプロジェクターを使用する口演のみの予定です。演題締め切り：2015年7月25日（土） 送付先：jsss35@saitama-med.ac.jp

懇親会（日本性科学連合第16回性科学セミナーと合同）：2015年10月10日（土）性科学セミナー終了後

埼玉県県民健康センター 1F 大会議室C 会費：5,000円

第35回日本性科学会事務局：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

埼玉医科大学産科婦人科学教室 担当：鈴木 元晴

TEL：049-276-1347（産婦人科医局）FAX：049-294-8305

E-mail: jsss35@saitama-med.ac.jp

学会ホームページ：<http://jsss35.kenkyuukai.jp/>

Vol. 34

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

No.
1

TEL・FAX 03-3868-3853

〔症例研究会から〕

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) の一例

神奈川県立汐見台病院産婦人科 早乙女 智子

Persistent Genital Arousal Disorder (PGAD) は性欲と関係なくオーガズムが頻繁に起こる稀な疾患であり、報告例は散見されるものの定形的な治療法も確立されていない。

PSAS (Persistent Sexual arousal syndrome) 持続性性喚起症候群とも言われるが、最近の文献では PGAD の方が多用されている。

症例は、初診時31歳 既婚1G0P。19歳のとき、クリトリスが過敏であることを主訴として病院に行ったところ妊娠が判明し人工妊娠中絶を受ける。20歳からパキシル、ドグマチール服用するも症状は不变。2013年から前医にてヤーズを服用してやや緩和するも治療困難なため、当院紹介される。大学病院産婦人科でのMRIでは陰部に明らかな腫瘍なし、子宮・卵巣異常なし。

現病歴として、4,5歳から自慰の記憶があり、14歳ごろダイエットで体重が38kgまで減少し無月経となつたことがある。その頃からストレスが溜まると自慰をしていたが、17歳頃から自慰行為をした翌朝に陰部のけいれんのような感覚があり、授業中に触れなくても快感が起こるようになる。18歳のとき脳外科でMRIを受けるも異常なし。28歳ごろから前医からヤーズ（ピル）を処方され、症状はやや軽快するも、大腿内側の痛みや頭の中に響くぴくぴくする感じがあり耐えがたく感じること。

当院での経過は、初診時の診察で、クリトリスが3mm程度包皮から露出している他は特に所見はなかつたが、全身のあちこちに痙攣が走るとの訴えあり。美容外科でクリトリス周囲にボトックス注射を受け、かえって症状が悪化。過敏な状態が続き、自暴自棄になる。リリカ、メイラックス、ヤーズで対処。マスターベーションをすると症状が悪化。また服薬を中断すると悪化。マスターベーションしても達成感がないなど、本人はボトックス注射の後遺症だと主張。症状の身体化が起きていると思われたので、刺激を避け、継続的な服薬を勧めた。少し落ち着くとマスターベーションや性交を試み、悪化することを繰り返しているが、夫の理解や支えもあり、徐々に症状は緩和している。この先、定期的な性交やマスターベーションができるかはわからない。妊娠を考える段階で症状の悪化を見る恐れもあり、服薬中止は慎重に相談しながら行う予定にしている。

海外でも一例報告は散見されるが、決まった治療法はない。器質的な疾患としては Tarlov cyst と言われる仙髄 S1～S4 領域の囊腫による同症状が報告されている。またクリトリス近辺の腫瘍によるものも報告されている。男性では性欲に関わらず勃起が起こる状態だが、過剰性欲との関連はないとされている。この疾患や状態があまり知られていないことから医療機関に辿り着いていない可能性があり頻度は不明である。自殺企図や自殺例もあるようである。日本でも自助グループがある。このケースを含めて、長期にフォローしていく中で、症状の改善と引き換えに性感を損ねることもあるが、痛みからの解放は快感を手放しても得たいものであろう。ストレスとの関連はありそうだが、精神的なことだけで片付く疾患ではないと思われる。

(本人の承諾を得て、日本性科学会で発表予定)

「子宮移植」の展望と課題

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 菅 沼 信 彦

近年、体外受精法や顕微授精法を主とする生殖補助技術(ART)の発展は、多くの不妊患者に福音をもたらしてきた。少産少子化が進むわが国において、年間(2012年)のART児数は約38,000人であり、全出生児の27人に1人に相当する。しかしながら、ARTをもってしても挙児を期待できない事例が存在する。その主たる対象が子宮性不妊である。子宮性不妊の原因は、先天的に子宮を欠損するMayer-Rokitansky-Küster-Hauser(MRKH)症候群や、後天的に子宮摘出を余儀なくされた場合などが挙げられる。わが国においても子宮癌は若年化の傾向にあり、妊娠性温存のための術式も考案されているが、子宮摘出が必要な例も数多い。そこで本稿においては、我々が臨床研究として進めている「子宮移植」技術を中心に、その倫理社会的観点からの考察も含め概説する。

子宮移植は、2000年にサウジアラビアにおいて、産後出血により子宮摘出術を余儀なくされた26歳の女性に、卵巣囊腫にて子宮摘出術が行われた46歳の生体ドナーからの最初の臨床適用が施行された。しかしながら血栓形成により、術後99日にて移植子宮を摘出せざるを得なかった。この結果を踏まえ、大動物を用いた多くの基礎研究が広く世界で始められた。2009年より我々も子宮移植プロジェクトチーム(ホームページ:pt-ut.org)を組織し、非ヒト霊長類(カニクイザル)を用いて動物実験を開始し、2012年には自家移植による妊娠・出産に成功した。一方世界ではヒトにおける臨床研究も進み、トルコにおいて2011年8月に22歳の脳死体ドナーから、22歳のMRKH症候群女性への子宮移植が行われ、2013年には妊娠が成立したが初期流産に終わった。またスウェーデンでは2012年9月～2013年4月までに、主に母娘(ドナーの平均年齢は53歳、レシピエントの平均年齢は32歳:MRKH症候群8例、子宮頸癌術後1例)における9例の生体間移植が行われ、7例が成功し、2014年9月には移植子宮からの世界初の出生児が得られた。12月にはさらに2例が誕生し、今後も複数例の出産が見込まれている。

これらの成功例を鑑みると、今後のさらなる技術的改良が必要であるとはいえ、近年の移植医療、生殖補助技術、周産期医療の進歩により、子宮移植は実現可能な医療になることが推察される。子宮性不妊に対する対処・治療法として、これまで養子縁組や代理懐胎などが適応されてきているが、それらの種々の問題点を回避できるオプションとして、子宮移植が選択肢の一つとなり得るかもしれない。しかしながら、これまでの妊娠例のレシピエントのほとんどはMRKH症候群の女性であり、子宮頸癌術後患者はスウェーデンの1例のみである。ただし本例は妊娠・出産に成功しており、後天的な子宮性不妊への適応も広がる可能性がある。

移植子宮のドナーとしては、生体ドナーとして親族とともに第三者も想定される。その中には性同一性障害(GID)者で、性別適合手術(SRS)を行ったFTM(female to male)の摘出子宮も対象と考えられる。この場合には、比較的若年者、少なくとも月経周期を有する年代の提供者で、その自発的意志の確認が容易である。また死体移植と異なり、事前に十分な準備期間を設定することができる。我々が行った一般市民の意識調査でも、ドナー候補者としてGID者は、母親、姉妹、死体ドナーとほぼ同数の賛同が得られた。さらに、MTF(male to female)は子宮移植のレシピエントとなり得る可能性もあり、MRKH症候群患者と同様に、身体的・精神的セクシュアル・マイノリティに対する生殖医療として、子宮移植は大きな課題を投げかけることになるであろう。

子宮移植において技術的進歩に対し、倫理社会的な問題は未解決のままである。レシピエントやドナーの身体的・精神的リスク、医療費などの経済的問題、出生児にとって「子宮の親」を心理的・法的にいかに捉えるかなど、生命維持臓器を対象とした一般の移植医療とは異なる問題点も数多い。加えて当医療のような第三者が関わる生殖医療技術の適用に際しては、医療者-患者の同意のみならず、社会的コンセンサスの確立も必須であろう。我々は日本子宮移植研究会(ホームページ:js-ut.org)を2014年3月に立ち上げ、子宮移植に関する情報の発信と、広く国民的議論の場を設け、わが国におけるこの新たな生殖補助医療の方向性を検討していきたいと考えている。

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2015年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。

尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備を御願い申し上げます。また、同時に2015年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者 セックス・カウンセラー 及川 卓

セックス・セラピスト 真名瀬賢吾・堀口 貞夫・早乙女智子・阿部 輝夫
野末 源一・矢島 通孝・武田 敏・田中 奈美
福本由美子・堀口 雅子・及川 卓・今井 伸

第22回 性の健康世界学会

22nd congress of the world association for sexual health のお知らせ

Website: <http://www.was2015.org>

期日：2015年7月25日（土）～28日（火）

会場：Suntec Singapore Convention & Exhibition Center

会長：Prof. P. Ganesan Adaikan

発表抄録締切：3月31日（延期は無いとのことです）

学会早期登録：5月25日まで

WAS 大会が20年ぶりにアジアで開催されます（前回は第12回横浜大会）。今回、学会ツアーは編成しませんが、現地での日本人情報、若手性科学者のための奨学金などお問い合わせは日本性科学連合事務局・今福 info@jfs1996.jp まで。

（文責：大川 玲子）

会費納入のお願い

4月より新しい年度（2015年4月1日～2016年3月31日）に入りますので、2015年度年会費（一般会員12,000円、役員15,000円、学生5,000円）のご納入を、よろしくお願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封いたしますので、ご利用ください。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送りください。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員の郵便振替用紙を送付いたしますので、その用紙でお振込みをお願い申し上げます。